

ふくしまの復興に貢献したい！一步ふみだす子どもたちを応援します！！

子どもがふみだす ふくしま復興体験応援事業

成 果 発 表 会

福島の今を伝えたい！復興に貢献したい！！という子どもたちの思いを実現するため、福島県教育委員会では、子どもたちが自ら考え、判断し、実行する、ふくしまの復興に役立つ社会体験活動・社会貢献活動を応援してきました。

このたび、その成果を発表し合い、互いのよさを学び合い、そして、次の新たな取組につながる、そんな発表会を目指し、開催いたしました。

◆ 開催日時：平成29年1月28日（土） 10：15～15：30

◆ 開催場所：ホテル福島グリーンパレス 瑞光の間

◆ 日 程

【開会 10:15～】 進行：福島県立橋高等学校放送部

○ 主催者あいさつ

○ 来賓紹介

【午前の部】 10:20～

① 農業高校経営マーケティングプログラム協議会「高校生による実践的6次化商品開発事業」



模擬会社を作り、実際に6次化商品の開発を体験したという発表であった。単に、成功体験だけではなく、たくさんの苦労や失敗をしたという点が、特に、素晴らしい点であった。発表の最後に、発表者から「このプログラムのおかげで未来のビジョンが明確になった。」という非常に力強い言葉がとても印象的であった。

② ひろの映像教育実行委員会「ふるさと創造・映像教育プロジェクト」



「広野町の復興」のために、短編ドキュメンタリー映画を作成した発表であった。たくさんの方への取材を通じて、震災で断ち切れになっていた夢、新しい郷土料理を作るという夢を自分たちの力で実現できたことが、本当に素晴らしい取組であった。同時に、作り上げた映像は、笑顔がどんどんから後からあふれていく、見ている人が元気になる映像であった。

③ふくしまバトン「福島から熊本へ繋げるバトン」



熊本の仮設住宅等を訪問し、日本舞踊を披露しながら、避難者の方々と交流した取組の発表であった。支えられる側から支える側へという思いを言葉だけではなく、実行に移した素晴らしい取組であった。また、浪江やきそばを、仮設住宅の住民へ振る舞うなどの取組も行った。

④喜多方市ふるさと振興株式会社

「山都蕎麦で糺をつなぐ高校生による手打ちそば実演・アピール事業」



地元の特産物であるそばの実演販売やアスパラを使用したどらやきの商品開発・販売についての発表であった。未だ県内であっても農産物に対する不安を抱く声があり、県外では正しい情報が伝わらない状況の中、このような活動が更に広がっていけば、「充分、福島は復興を成せる。」そんな気持ちにさせる発表であった。

⑤福島県立会津学鳳中学校・高等学校美術部

「ふるさとの思い出リーフプロジェクト～木彫りの温もりとともに～」



美術部の皆さん、被災された方々からふるさとの思い出の写真を預かり、それを基に、木の温もりを感じさせる着彩木彫リーフとして仕上げ、被災された方々へ贈呈した取組の発表であった。自分たちの技能を生かし、一つ一つ、一彫り一彫り形にしていく中で、被災された方々の思い出がどんどん深まっていく様子が感じられた発表であった。

⑥ 福島県立平商業高等学校

「平商フラダンス大使ふくしまの復興を世界へアピールプロジェクト」



県内外に元気な笑顔と踊りを提供した取組の発表であった。本場ハワイまで行き、自分たちが考えたダンスを披露したり、研修したりとグローバル化された取組であった。今後も、この伝統を後輩たちへ受け継がれることが期待される取組である。

12:15~12:45

⑦ 新商品開発事業実演販売

福島県立郡山商業高等学校 福島県立耶麻農業高等学校 農業高校経営マーケティングプログラム協議会



商品開発に取り組んだ高校生の実演販売が行われた。社会人であっても6次産業化に挑戦するのはなかなか大変なことだが、どれも福島県の復興をアピールする商品に仕上がっており、来場者からも好評であった。

【午後の部】 13:15~15:30

① 埼工業和太鼓部「ふくしま復興PR演奏・餅つきボランティア」



県内外での復興をアピールした和太鼓の演奏や、仮設住宅を訪問し、和太鼓の演奏とともに、住民の方々と一緒に餅つきを通した交流活動についての発表であった。迫力のある和太鼓演奏は、高校生の元気、福島の復興を感じられた発表であった。

② 国立大学法人福島大学

「地方創生イノベーションスクール 2030～海外の生徒との協働プロジェクト実施～」



郷土福島市の魅力を発信するため、福島市の観光地などを自分たちで調査し、それをもとに、観光案内コースを企画し、実行に移した取組の発表であった。

今後、台中市（台湾）の方へ訪問が予定されており、その成果も期待されるところである。

③ 福島県PTA連合会「水俣との交流事業」



福島と水俣の中学生が、県内の現状について現地等を訪れ学習したり、今後、自分たちに何ができるかということを熟議により考えたりする活動についての発表であった。参加した生徒たちが、各学校に戻り、活動の様子や今後の取組について報告するなど、広がりが見られた活動であった。

④ 福島県立小高商業高等学校

「小高区復興PRアニメ作成～高校生の力で小高区復興の手助けを～」



福島ガイナックスの協力を得て、アニメーションを制作し、郷土小高区や来春開校する小高産業技術高等学校の魅力を伝える活動についての発表であった。生徒たちの思いが詰まったアニメーションを通しての情報発信は、これまでにない取組で、作品の完成がとても期待される。

⑤ 福島県立福島高等学校「Radiation Protection Workshop in Fukushima 2016」「日英サイエンスワークショップ」「陸上養殖・循環型農法プロジェクト」



海外の高校生と交流をしながらの福島の現状や放射線を学ぶ活動や、地元土湯温泉の活性化に向けた活動についての発表があった。英語での交流活動や、淡水魚と海水魚が共存できる好適環境水を用いた鰻とフグの養殖など、高度な専門性を生かした取組であった。

⑥ MJCアンサンブル「音楽で結ぶ　ふたつの被災地　世界の絆」



県内外で合唱を披露しながら、福島の復興をアピールする活動の発表であった。澄んだ歌声、音楽のもつ情報発信力の高さを感じる発表であった。会の最後にも、エンディングソングとして、子どもたちがふみだす一歩を応援する曲「群青」が披露された。